

## 就職に伴う人口移動にみられる変化 ～新卒者による大阪圏へのUターン就職の増加も～

- 総務省「住民基本台帳人口移動報告」で2012年3月の人口移動をみると、3大都市圏はすべて転入超過となった（図表1）。これは前年にもみられた動きであり、一見すると違和感はないように思われるが、過去数年間に比べると直近2年間はトレンドから大きく外れている。
- 前年は東日本大震災の直後であり、大きな混乱の中でトレンドと乖離したことは理解できるが、今年についてはどう判断すべきか。特に大阪圏はそれが顕著であり、図表2のとおり3月は転出超過となるのが通例であるが、今年も3千人超の転入超となっている。本来、前年が特殊事情によるものとすれば、今年はある程度以前のトレンドに戻ってもおかしくない。ところが、図表3で大阪圏の転入超過数を対地域別にみても、例えば対関東への転出超幅（過去のトレンドは▲7千～9千人）は、更にトレンドから乖離が進んでいることが分かる。

〔図表1〕3大都市圏における転入超過数の推移

	2011年												2012年		
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
東京圏	2103	1755	41885	19774	3722	▲1207	▲2817	▲632	▲535	▲4	60	▲1295	820	159	42612
名古屋圏	▲522	▲561	1307	1472	430	454	197	102	▲87	274	211	▲217	▲1	378	979
大阪圏	▲1181	▲1142	3070	5339	397	425	764	▲385	▲825	▲1100	▲692	▲461	▲472	▲909	3132

〔出所〕総務省「住民基本台帳人口移動報告」

※転入超過数…転入者数－転出者数

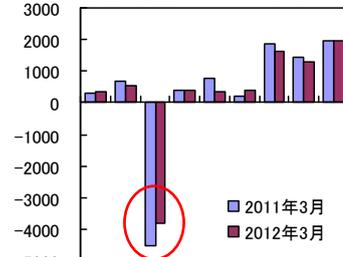
※3大都市圏…東京圏：東京、神奈川、埼玉、千葉、名古屋圏：愛知、岐阜、三重、大阪圏：大阪、兵庫、京都、奈良

〔図表2〕3月の3大都市圏における人口の転入超過数数（直近7年間）

	東京圏		名古屋圏		大阪圏				
	男性	女性	男性	女性	男性	女性			
06/3	51,400	27,131	24,269	3,341	2,726	615	▲366	▲2,014	1,648
07/3	56,911	30,777	26,134	3,502	2,963	539	▲592	▲2,157	1,565
08/3	65,272	35,057	30,215	3,996	3,152	844	▲1,529	▲2,849	1,320
09/3	63,535	33,893	29,642	602	618	▲16	▲1,066	▲2,284	1,218
10/3	50,995	25,646	25,349	▲1,170	▲440	▲730	▲955	▲1,926	971
11/3	41,885	21,580	20,305	1,307	1,211	96	3,070	19	3,051
12/3	42,612	21,246	21,366	979	1,274	▲295	3,132	▲267	3,399

〔出所〕総務省「住民基本台帳人口移動報告」

〔図表3〕3月の大阪圏における転入超過数（直近2年間、対地域別）

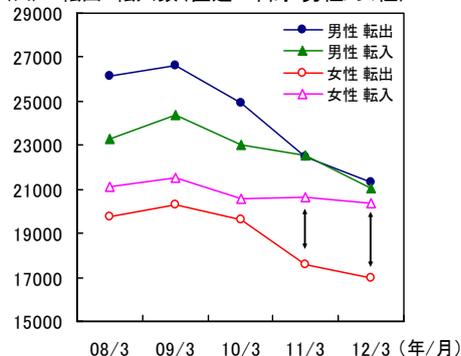


北 東 関 北 中 関 中 四 九  
海 北 東 陸 部 西 国 国 州  
道

- 一方、図表2にも表れているように、今年3月の動きは男性と女性で大きな違いがみられる。東京圏、大阪圏では男性の転入超過数が前年を下回っている一方、女性は反対に前年以上の規模となっている。さらに、図表4で大阪圏について詳しくみると、転出数は男性と女性でほぼ同じトレンドであるのに対し、転入数には大きな違いがあることが分かる。つまり、大阪圏の2012年3月については、「女性の転出数は減少が進んだ反面、転入数はほぼ変わらなかった」ことで、転入超過数のプラス幅が拡大したといえよう。
- ただし、「ほぼ変わらなかった」女性の転入数についても、対地域別にみると動きに大きな違いがある。関東と東北、北海道では大阪圏への転入数が増えている一方、その他の地域では減少がみられる（図表5）。東北は転出数が増えていることでも分かるように、前年の反動による部分が大きいとみられることから、注目すべきは関東からの転入増ということになる。これについては、データに限りがあるため推測にならざるを得ないが、3月という時期を考

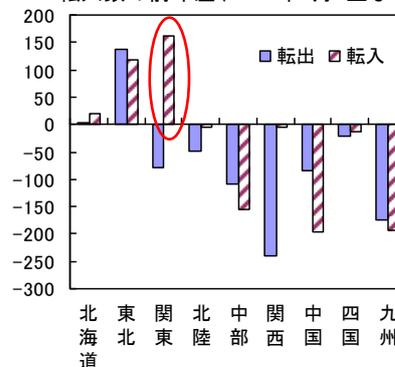
慮すると就職に伴う移動が関係している可能性が高い。つまり、「就職に伴って関東から大阪圏に移ってくる女性が増えている」ことが考えられる。

[図表4] 3月の大阪圏における人口の  
(人) 転出・転入数(直近5年間・男性/女性)



(出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

[図表5] 大阪圏における女性の転出・  
(人) 転入数の前年差(2012年3月・主な地域別)



(出所) 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

- それを裏付けるように、女性の年齢層別に転出入の動きをみると、20～24 歳では前年よりも転入超過数が448人増えている(図表6)。大学卒業の最低年齢が22歳、短大卒業が20歳であることを考えると、まさにこの年齢層は新卒就職に伴う動きを示していることになろう。
- このデータは転出数、転入数に分けての把握が不可能なため、決して断定はできないが、ここまでの結果とあわせて考えると、「地元での就職を希望する学生が増えているほか、関東の大学を卒業した関西出身者の間で、Uターン就職が増えている」可能性が高いと考えられる。
- 参考までに20～24歳の男性の動きをみてみると、女性ほど大きな変化のないことが分かる(図表7)。近年、男性は女性と違って転出超の傾向が続いているが、その規模は前年とほとんど変わっていない。このことは、震災が就職の希望地域に与えた影響には男女で大きな差があることを示唆しているが、最終的な判断については4月の結果も含めて行う必要があるとみられる。

[図表6] 3月の大阪圏における女性の転入超過数(直近3年間・年齢層別)

	0～4歳	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
10/3	▲ 235	▲ 96	32	1,128	1,529	▲ 483	▲ 298	▲ 401	10	4
11/3(A)	15	41	98	1,278	1,809	▲ 155	▲ 153	▲ 2	101	98
12/3(B)	▲ 131	▲ 8	114	1,158	2,257	▲ 203	▲ 38	▲ 49	147	129
(B)-(A)	▲ 146	▲ 49	16	▲ 120	448	▲ 48	115	▲ 47	46	31

	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	全体
10/3	▲ 25	▲ 57	▲ 69	▲ 46	▲ 20	▲ 21	▲ 4	8	15	971
11/3(A)	▲ 24	▲ 15	▲ 66	▲ 32	0	▲ 17	26	35	14	3,051
12/3(B)	34	▲ 28	▲ 33	3	▲ 1	▲ 1	18	10	21	3,399
(B)-(A)	58	▲ 13	33	35	▲ 1	16	▲ 8	▲ 25	7	348

[図表7] 3月の大阪圏における男性の転入超過数(直近3年間・年齢層別)

	0～4歳	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49
10/3	▲ 228	▲ 291	▲ 58	911	▲ 789	▲ 604	▲ 258	▲ 213	▲ 111	▲ 20
11/3(A)	▲ 21	31	137	1,065	▲ 551	▲ 468	▲ 122	▲ 32	90	11
12/3(B)	▲ 42	▲ 70	48	942	▲ 508	▲ 492	▲ 53	▲ 82	▲ 95	113
(B)-(A)	▲ 21	▲ 101	▲ 89	▲ 123	43	▲ 24	69	▲ 50	▲ 185	102

	50～54	55～59	60～64	65～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90歳以上	全体
10/3	16	▲ 50	▲ 148	▲ 38	▲ 32	▲ 9	▲ 8	3	2	▲ 1,926
11/3(A)	55	▲ 16	▲ 116	▲ 18	▲ 15	▲ 14	7	▲ 10	6	19
12/3(B)	32	41	▲ 87	▲ 18	15	▲ 8	▲ 13	11	▲ 1	▲ 267
(B)-(A)	▲ 23	57	29	0	30	6	▲ 20	21	▲ 7	▲ 286